

「省エネ」を使命にグリーンエネルギー事業を 拡大中の台達電子

電源ユニット台湾最大手の台達電子(Delta)、サーバーやノートPC、ゲーム機器などの電源ユニットでは世界シェア第1位を誇る。近年は事業範囲をLEDや太陽光発電(PV)などのグリーンエネルギー分野に広げている。同社は「企業公民」を自任しており、環境保護という使命を实践すべく、より進んだエネルギー技術を開発することで地球規模での省エネ推進を図っている。今回は同社広報部副総裁兼総経理の蔡榮騰氏を訪ね、事業現況や日本企業との協力の状況、CSRへの考え方などについてお話を伺った。



台達電子(股)広報部副総裁 蔡榮騰氏

事業概要について

当社は1971年に設立され、長年に渡って交換式電源ユニットの開発・製造に携わってきました。現在は世界各地に拠点をもち、デスクトップPC、ノートPC、その他ITメーカーのニーズに応じた製品を供給しています。電源管理システム製品の当社売上(2009年)に占める割合は64%に達します。

電源ユニットのほか、当社は近年、世界的に注目が高まっているグリーンエネルギー事業、具体的にはLED及びPV事業にも取り組んでいます。LED事業に関しては、一般家庭用の照明や街灯のほか、高解像度プロジェクターへの応用を図っています。節電効果だけではなく、従来型プロジェクターの10倍の耐用年数を実現しており、当社はこの技術を武器に、世界のトッププロジェクターメーカーと提携し、DMS(設計・製造・サービス)事業を展開していきます。現在のところLEDはコストが高く、十分に普及していませんが、将来の市場成長を確信しております。当社は先進的な技術を有しており、需要に応じていつでも量産が可能です。PVも当社が力を入れている事業の一つです。台達電グループでは、当社がインテグレーターとして、グループ内で供給されるセル、モジュール、インバーター、設計・制御の各リソースを統合して、システム全体を提供しています。このシステムは昨年高雄で開催された「ワールドゲームズ2009」の会場施設に採用され、施設の外観と建材の透光率にも配慮しながら、発電出力1MW、年間発電量110万kWhを達成しています。当社はこうした新しい技術と本業を補完的に発展させながら、電源・電力システムに関するトータルソリューションの提供者として成長していくことを目指しております。

事業成長の秘訣について

事業面での当社の強みは、単なる電源ユニットやLED、太陽電池などのサプライヤーであるだけではなく、電源・電力システムに関するトータルソリューションを提供できる点にあり、顧客ニーズに応じて、最適な製品やサービスを提供しております。

企業としての当社の強みは、世界中にサプライチェーンを有するほか、スピーディな意思決定と行動力という台湾企業の良さを備えており、顧客ニーズに素早く対応できる点です。当社は長年に渡る各国の大手企業との協力経験を通じて、不断に学習と進歩を続けてきました。管理職は人材育成を主な任務としており、若い社員にも十分な意思決定の権限が与えられております。当社は来年設立40周年を迎えるのですが、社員の平均年齢は31年7ヶ月です。当社が若く、新しい人材を重視している点がお分かりいただけたと思います。

日本との関係について

当社は1986年に東京事務所を開き、NECや富士通、セイコーエプソンなどの日本の著名企業との取引が始まりました。その後1991年に現地法人のデルタ電子株式会社を設立しました。たった一人から出発した日本の拠点は、今では100名を超える所帯に成長しました。内日本人は6~7割で、残りは8カ国の外国人が勤務しております。日本では東京本社と大阪支店のほか、顧客の近くにカスタマーサービスセンターを設置しています。このほか、プロジェクトベースの事業として、世界各国から派遣されたエンジニアが小型のR&Dチームを組織し、日本の大手家電メーカーなどと共同で製品開発を行っています。電源製品のほか、PV事業では、当社は外国企業とし

台湾トップ企業

て初めて日本でモジュール販売を始め、初めて JETPVm (* 太陽光発電システム用に設計された非集光形の太陽電池モジュールを対象に、その信頼性、安全性を証明する認証。財団法人電気安全環境研究所が認証を行っている) を取得しました。

前述の通り、当社と日本企業は 20 年以上に渡る協力関係があり、日本の大手家電メーカー、IT 製品メーカーはいずれも当社の重要な顧客です。日本でのビジネスにおいて当社が最重視しているのは売上ではなく、顧客との長期的な信頼関係を構築し、将来に渡ってともに成長していくことです。当社は日本の顧客を「生涯学習」の対象だと捉えています。日本は文化面でも、品質へのこだわり的一面でも、また、自動化生産等の技術面でも、常に学ぶべきところがあります。反対に当社からは、日本企業に対し、グローバルネットワークや効率的な意思決定に基づくマネジメントの経験を提供することができます。こうした強みを活かしながら、日本企業とシナジー効果を発揮できる関係を築いていきたいですね。

グリーン建築の取り組みについて

当社が自社工場のグリーン建築化を進めるきっかけとなったのは、2003 年に鄭崇華董事長がタイでバイオホーム・グリーン建築を見たことです。建築工法の工夫により室内温度の低減が図られるなど、その省エネ技術は驚くべきものでした。この時の経験を通じて、当社の全ての工場をグリーン建築とすることを決めたと言います。

2005 年に完工した南部サイエンスパークの台南工場は当社で初めてのグリーン工場となりました。建物全体が「立体緑化」のコンセプトに基づいて建てられています。工場のグリーン建築化で最も困難なのは、節電と節水です。当社の台南工場は、設計上の工夫を加えたり、断熱ガラスを使用しながら、採光と遮光の最適化を果たしており、照明と空調の使用を減らし、31%の節電を達成しました。また、雨水回収システムの導入により、毎年 4,100 トンの雨水を緑地の灌漑用やトイレ用に再利用しており、50%の節水効果を実現しております。こうした取り組みが評価され、台南工場は 2006 年に台湾の工場では初めてグリーン建築表彰のゴールドクラス認証(CO2削減、廃棄物削減、水資源の再利用など、九つの評価基準の全てクリア)を取得しました。2009 年には工場従業員が前年の 200 人から 300 人に増えたのですが、エネルギー消費は全く増加しませんでした。そしてこの年、台南工場は

ダイヤモンドクラスの認証(ゴールドクラスの条件に加え、各評価基準で高得点を取得)を受けました。

当社の台南工場は早くからメディアや業界の注目を受けており、国内の大手 IC、LCD メーカーも視察に訪れました。当社のささやかな取り組みがきっかけとなり、これから多くのグリーン建築工場が生まれ、台湾と地球のエネルギー消費の減少につながってくれば、と願っております。

企業の社会責任(CSR)について

当社は電源ユニットメーカーであり、全ての事業はエネルギーと関わっています。そして、当社の歩みの中で一貫しているのは、省エネへのこだわりです。2006 年にインテルとグーグルが開いたフォーラムの中で次のような研究結果が出されました。もし、PC アダプターのエネルギー変換効率を 60 ~ 70% から 90% まで高めることができれば、1 億台の PC を 3 年間稼働させたとして計算した場合、400 億 kWh の電力量を節約することができるというものです。これは林口の火力発電所 11 基分の発電量にあたります。現在、当社のアダプターの変換効率は 90% を超える水準に達しており、地球環境に対する貢献、つまり節電量は、台湾にある 3 基の電子力発電所の発電量に相当します。

このほか、当社は環境保全にも積極的に取り組んでいます。前述の台南工場の周囲と内湖の本社屋上にはピオトープを設けており、昆虫や微生物の棲家となっています。工場やビルの建設により元々あった環境を破壊してしまうのではなく、生態系の維持を図っています。グリーン建築工場は台南のほか、インド、スロバキアにも建設しており、今後も続けていきます。こうした環境保護への取り組みは、当社が経営使命とする「環境保護、省エネ、地球への愛」の実践にほかなりません。今後も本業から出発しながら、この使命を実践し続けて参ります。

ありがとうございました

台達電子股份有限公司の基本データ

会社名	台達電子股份有限公司
設立	1971年
董事長	鄭崇華
資本金	239億元
社員数	4,900名(2009年末時点)
事業内容	各種電源ユニットの生産及び販売

注) 2010年10月時点のデータによる。
出所) 公開資料及びヒアリングよりNRI整理